

県育成早期水稻品種・系統の初期耐冷性

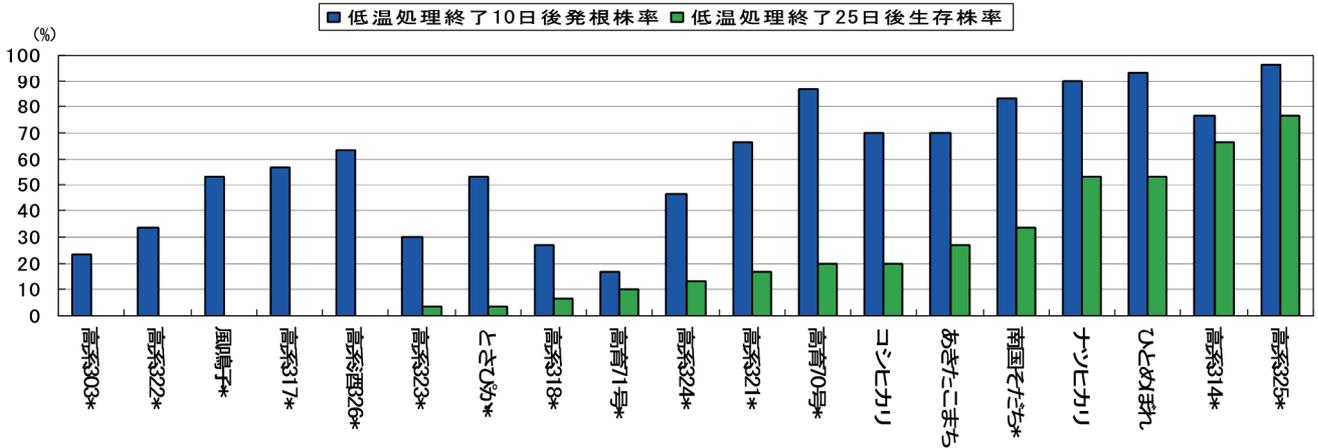


図 高知県育成品種・系統とその他品種の初期耐冷性

注 1) 21日苗を水田土壌を充填したバットに移植し、人工気象器の中で25日間10℃の低温に遭遇させた後、平均気温23.5℃の室内で管理した。
 2) 低温処理終了から10日後に新根の発生した株の割合(発根株率)と、25日後に生存している株の割合(生存株率)を調査した。
 3) *は高知県育成の品種・系統を表す。

高知県の早期水稻では、近年、登熟期間の高温の影響により、白未熟粒が発生し玄米品質の低下が問題となっています。この回避策の1つとして、作期の前進化が考えられますが、作期を前進化すると移植時期に低温に遭遇する可能性が高くなります。

そこで、低温に強い品種を育種・選抜するために、本県育成品種・系統の初期耐冷性(移植後生育初期の耐冷性)を検討しました。今回は、初期耐冷性を低温遭遇後の苗の回復力で判定しました。

その結果、県育成品種の‘南国そだち’は同じ極早生品種の‘とさびか’に比べ、低温に遭遇した後の発根株率や生存株率が

高く、初期耐冷性に優れていることがわかりました。県育成系統のなかでは、高系314や高系325が初期耐冷性に優れ、特に有望であると考えられました。

引き続き低温処理温度や処理期間などの条件を変えて初期耐冷性を検討していきます。

また、作期の前進化にともない、穂ばらみ期の低温(17℃前後)により障害型不稔がおこる可能性も高くなります。そのため、穂ばらみ期の低温に強い品種・系統の検討も併せて行っていきます。

(水田作物担当 王 恵子 088-863-4916)

高知県農業技術センターニュース 第53号

平成20年10月1日

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王3523-7

TEL (0887) 72-0058

FAX (0887) 72-1544

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/se/home/>

編集発行 高知県農業技術センター

所長 前田 幸二

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/kaju/index.htm>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/tya/index.htm>